

③ 事例研究

課題

事例研究を参考に、個別支援計画を作成するうえで必要と思われることをまとめ、あなたの所属する機関における個別支援計画の課題を述べなさい。

『事例研究』を読み進めながらずっと考えていたことがあった。それは、現在の職場の課題(改善点)についてだった。そこであえてこのレポートでは、「あなたの所属する機関における個別支援計画の課題を」先に述べることから始めたいと思う。「事例研究を参考に、個別支援計画を作成するうえで必要と思われること」に関しては、そこで課題として挙げていくことで、必要性や重要性を確認していきたい。その方が分かりやすく指摘・論述できるはずであると思うからである。

第一に私の職場の最初の不備は、利用者の実態調べが杜撰であり手薄であることである。まず個人のプロフィールの書く欄が非常に小さい。内容も細かく分類もされておらず、障害名さえ記入していない家庭もある。それでいて、それを施設として受け入れてファイリングしており、今後再度記入してもらおう様子もない。知能検査や発達検査を行わず、その結果も分からないため、本人がどれくらいの知的レベルの持ち主なのかは書類を読んだだけでは分からず、現実に支援をしながら手探りで推し量っていくしか方法がない。アセスメントもあまり有効性のない内容であり、例えば、「基本的生活習慣」「生活スキル」「社会スキル」「社会参加」「コミュニケーション・対人関係」といった、個別支援計画を立てる上での重要な情報に関した項目に関して問わず、さら

にそれを数値化できていないため、個別支援計画を立てる時に何がより優先順位が高いのかなどをひと目で見て分かる状態にはない。こちらも、各々職員が自力で利用者と日々接することで、体得していくことが必要となる。

性格や特性については、保護者が記入した内容がフェイスシートにあるだけで、客観的な評価内容ではない。かなり、個人的な色合いの強い表現や視点で説明されている文章があるだけである。こちらも、利用者に関わることで感受していくことが必要となる。

次に、適切な支援目標を導き出すための行動観察を詳細に数値化して評価していない。(ただし、逸話記録はしっかりとしている)。支援結果を図にまとめるなどもしていない。

病歴や教育歴、服薬している薬についてなども書く欄がない。

以上のことから分かるのは、我が職場では、フェイスシートアセスメントシートが個別支援計画を立てるにあたって、とても重要なツールであるということをおそらく気づいていない人が作り、それを見直しをしないままずっと実施しているということだ。

もちろん、フェイスシートやアセスメントシートだけで個別支援計画を立てるわけではない。普段の生活の中で見えてくる課題について、本人や保護者の意向も考えて立てるものである。さら

に、個別支援計画はその有効性を確認するためにも評価をするわけで、データを集め分かりやすく分析することが大切であるが、逸話記録を主に実施しており、数値化する努力やグラフ化して分かりやすくまとめる努力を職場で奨励されることなく、そもそもそういう方法を使うことで次の支援に活かすということさえも教科書を読むまでははっきりとは知らないまま過ぎていたほどであった。(自分で表を作り利用者の行動記録をとっていたのだが、それが有効な方法であるとは自分では半信半疑であった)。事例研究会もなく、直属の先輩以外から記録や支援について学ぶこともなく、スーパービジョンもないので、何が有効な支援なのかは、非常に狭い範囲の人の価値観に左右されてしまい、その人たちの同意が得られなければそれ以上その支援をしていくことができないという状態である。その為、自分のケースを客観的に表現する機会も、ほかの人から新しい視点を得る機会も失われている。

以上のことをまとめるならば、私の職場の危険性は、事例研究が行われないなど、支援の品質

を高めるための機会がそもそも失われており、配属先の先輩職員の経験則などによって学べる支援も変わってくるという野蛮な状態で支援が行われているということである。

私が障害者福祉のプロとして利用者やその保護者と対等に向き合えるようになるためにできることは、まず、夫々の事例の障害特性やおかれている状況などの客観的なデータを収集し、適切な方法論によって支援に取り組み、その結果を明確に評価して、事例研究を行っていくことが必要である。

その方法とは、これまで我が職場の課題として上げてきたことの繰り返しになるが、フェイスシートやアセスメントシートを充実させて、データを積極的にとり、数値化やグラフ化によって評価をして、職場全体の取り組みとして、事例研究会を開き、様々な支援方法をお互いに学び合い高めあっていくことが非常に大切である。

講評：

A評価です。学ぶとは、気づく ⇒ 描く ⇒ 変わるという過程をたどります。学んだことを活かして行ってください。今後とも利用者主体のより良き実践に励まれることを期待いたします。